

アウトプットとインプット

先日の職員会議で眞野先生が今夏に行われた滋賀県特別支援教育夏季研修会での発表レポートを報告してくれました。本校での通級指導教室での指導では毎回その取組内容を一枚にまとめられたものを読んでいます。他の生徒の指導のヒントになることが多いです。是非ともそんな視点で眞野レポートを読み直してほしいと思います。同時にこんなことも考えながら聞いていました。それは、きっとレポートを書くのに大変な労力があつたことは想像しますが、それ以上に直接的にも間接的にも眞野先生自身の新たな学びがあつたのではないのでしょうか。

私も若いときから、こういった機会をたくさん与えてもらい、自分の実践をアウトプットしてきました。一番苦い思い出は、30代するとき、技術・家庭科の教育課程協議会で、「指導と評価の一体化を創造して行っている指導実践例・観点別状況をとらえるための工夫と評価」というテーマで実践発表したところ、当時の指導主事に評価について厳しい指導を受けました。それ以来、「指導と評価の一体化」、「関心・意欲・態度（当時）」の評価についてかなり勉強もしました。アウトプットをすると次のインプットにつながる経験は、その後の自分自身の学びにもつながっています。ある頃から忙しくても「依頼はすべて受ける」と決め、様々なアウトプットをしてきました。珍しいところ言えば、私は体育科でもないのに、運動部活動の研修会で若い体育科の先生に指導したこと、総合教育センターの研修では、特別活動の講座もしたりしました。

大東中学校で学級担任を離れた年がありましたが、それまで14年間書き溜めた学級通信すべてを冊子として100冊作り、県内の若い先生に配布しました。1年目から書いた学級通信（陸上競技部通信も）を職員室のすべての先生に読んでもらっていましたが、その時々いろいろなことを逆に教えてもらいました。

今も多くのアウトプットの機会がありますが、少し気持ちが変わっています。40代後半からは、恩返しのアウトプットだと思い、様々なことにチャレンジしています。今年是全国校長会の原稿を2つ書かせてもらいました。また、来年の近畿中学校長会の分科会での発表があたり、現在原稿のつめを行っています。夏休みには弘済会の教育論文に挑戦し、優良賞と賞金をいただきました。次は、その賞金を印刷代にして、管理職に読んでもらう冊子を作成しようと思っています。こういう話をすると「お前はどこ向いて教育しているのか」と批判も受けます。そして表に出せば出すほど、内容についての意見を受け、時として批判にさらされたこともあります。

人間の呼吸と同じで、まずは「ゆっくり吐く」、すなわちアウトプットすることは正しいと思います。しんどいときに息を吸いまくっても体の中には入ってくれません。仕事もインプットが先でなく、アウトプットをすることで、新たなインプットが生まれまゝす。是非とも先生方も怖がらずどんどんアウトプットしてください。 (2023. 12. 18)